神の御名(中):最も慈悲深き御方

:

明:アッラ の美しき御名についての解 。アッ=ラフマ ンとアッ=ラヒ ム。

目:事イスラ ムの信条神について

より: ア イシャ ステイシ

□15 Dec 2014

集日 14 Jul 2019



慈悲あまねく慈 深き神(アッラ)の御名において。

この 事は、ムスリムが物事を 始するにあたり唱える言 と共に始まります。 食や衣服の着用、入浴などの最も日常的な行 であれ、 始の前にムスリムはそれを崇 行 とすべく、神の御名に言及します。かれ(神) は最も 大かつ最も慈悲あまねき御方であり、かれの慈悲はあらゆるものに及び、存在し得るすべての慈悲 慈 の源泉なのです。神はクルア ンの中でこのように述べます。" われの慈悲は、凡てのものにあまねくおよぶ。" (クルア ン7:156)

言者ムハンマドの言行 から、私たちは神が 造の にこのように述べたことを知ります。 " われの慈悲はわれの怒りに る。(サヒ フ ブハ リ 、ムスリム)

具体的に、慈悲とはどういったものなのでしょう? 辞 には「いつくしみ、あわれむ心、情け深いこと 」などと されています。アラビア における慈悲は「ラフマ」であり、神の御名のうち 最も重要なものの2つはこの を 根として派生したものです。それらは、「アッ=ラフマン」 慈悲あまねき御方、そして「アッ=ラヒ ム」 最も慈 深き御方です。神の慈悲とはしさ、敬 、思いやり、慈 、赦しを包括する 妙な性 です。それらの性 が 世において できるのは、神による被造物への慈悲の反映に ぎないのです。

言者ムハンマドは、神による被造物への慈悲は、母 による子供への慈悲に るものであると私たちに告げており(サヒ フ ブハ リ 、ムスリム)

、事 アラビア で子 を意味する「ラヒム」は、慈悲を意味する「ラフマ」と同じ 根から 派生した なのです。神の慈悲と子 に独自のつながりがあるということは、とても重要 な意味を持ちます。子 が胎 を 育し保 するように、神は私たちを 育し保 するからです。

言者ムハンマドは慈悲の性 について、神は100部の慈悲を持ち、そのうちの1部だけを 被造物の で分け合われるよう下したことを教友たちに 明しています。これにより人々 はお互いを思いやり、 切にし、 物たちも子供たちを慈しむものの、神は残りの99部を 判の日、信仰者たちへと授けられるのです。(サヒ フ ムスリム)

被造物のすべては、この1部だけの慈悲を元にした 情や思いやりをお互いに示し合っています。人は しい人や困 者にすすんで喜 し、家族はお互いを して支え合い、 物は赤ん坊を守ります。一般的に慈悲と思いやりは、苦 を和らげ、 切さや幸せを める役目を果たします。この世界は には暗く な 所に映るかもしれませんが、熟考し反省する者は、神の慈悲を 出し、感じとることができます。雨は降り、太 は き、子供は父 の手を握りしめ、子猫は温かい母猫にくっついて体を丸めます。神の慈悲は く、私たちの周りから て取ることができますが、かれは 判の日に善行を み、神のご 悦を得ようと努力した信仰者だけのために残りの99部を加え、かれの慈悲を完全なものとします。こうした概念は畏敬の念を抱かせます。神の慈悲には制限がないのです。

人 への 限の慈悲のしるしとして、神は きのため、そして永 の へと く正道に留まらせる ために 言者 使徒を遣わしました。神は、 言者ムハンマドを遣わしたのは、人 への慈悲 に他ならないと述べています。

言者ムハンマドはその慈悲を体 した人物でした。彼は家族、孤 、友人または 知らぬ人であれ、周りの人々に する思いやりに ちていました。

言者ムハンマドは、信仰者たちのための慈悲を常々祈 していました。またムスリムは お互いに「アッサラ ム アライクム ワラフマトゥッラ (神による平安と慈悲があなたに ありますように)」という挨拶を交わします。慈悲にまつわるすべてのことはイスラ ムにおいて非常に重要な概念です。なぜならそこから 切さ、敬意、 容さ、情け深さな どの、ムスリムが人生の中で うべき性 のすべてが分岐するからです。

私たちは脆く い人 として、しばしば 慈悲に思える世界で孤独感や 失感に まされますが 、そうした瞬 においてこそ、神へと立ち返り、かれの慈悲と赦しを求めるべきなので す。私たちが真の服 をもってかれと向かい合えば、かれによって平 がもたらされ、周 りの世界に ち溢れるかれの慈悲を感じとることができるようになるのです。

暗 の中であなたに手を差し伸べてくれるのは、神の慈悲が反映されたものであり、それは 知らぬ人からの 切な言 や、干からびた大地に降り注ぐ雨、また笑 を せる子供たちの目の きも同 です。神の慈悲は、あらゆる善、 切、信仰深さの源泉です。神は私たちがかれの 大さの一部を理解することのできるよう、かれの美しき御名を 示しました。そこにはかれの慈悲を示すものが 数あり、私たちはそれらの名前をもってかれに呼びかけることが められています。

アッ=ラフマン(最も慈悲あまねき御方)、アッ=ラヒム(最も慈深き御方)、アル =バッル(善の源泉)、アル=カリム(最も大な御方)、アル=ジャウワド(最も切 な御方)、アッ=ラウフ(最も情け深い御方)、アル=ワッハブ(授与する御方)な どがそうです。

神による数え切れない祝福に して私たちが感 したいとき、または何か必要なものがあるときは、それらの御名でかれに呼びかけることができます。特に安心感や安全が必要な は、私たちは神の慈悲を く欲します。 世の さが私たちに 力感を与えるとき、最も力 い御方は常に、そして永 にかれの慈悲を私たちに降り注ぎますが、かれが私たちから求めていることは、かれを信じ、かれのみを崇 することだけなのです。

脚注:

1

スパ大辞林。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1579

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。